

## 東日本大震災で全壊したホテルに対する再生支援

(北日本銀行)

### 【概要】

震災により閉館を余儀なくされたホテルに対し、三菱商事復興支援財団等との外部機関との連携により新ホテル再開資金を支援。また(株)東日本大震災事業者再生支援機構との連携により、震災前の金融債務の買取支援を実施し、二重債務を解消。

なお、資金繰り支援のほか、新ホテルオープンの際には専門家派遣による集客に向けての勉強会や接遇研修等の側面支援も実施。

### 背景と経緯

昭和47年に先代が旅館業創業。昭和61年にホテルを新築した際に当行が資金支援し、以降29年間メイン行として取引してきた先である。

6階建、31室の規模で、地元の新鮮な海の幸を手頃な価格で提供するホテルとして、家族連れからビジネス客まで多くのリピーターを擁するホテルであった。

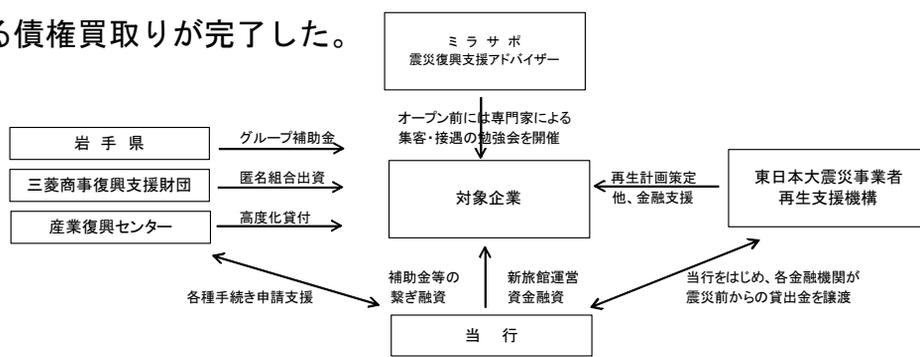
平成23年3月の東日本大震災の津波により3階まで被災（4階も一部被災）し、壊滅状態となり、以降休業状態を余儀なくされた。

休業状況が続く中、旅行者に対し、社長自ら録画した津波映像を基に、震災を風化させまいと必死に取り組みながら、自身のホテル復活にも強い意欲を持ち続けた姿に共感し、北日本銀行は同社の営業再開に向けた支援を開始した。

### 具体的な取組

平成23年12月頃、まず営業再開へ必要不可欠な資金確保に向けて、北日本銀行営業統括部復興支援チームが窓口となり、グループ補助金申請に加え、高度化資金の申請の手続き支援に取り組んだ。その他、復興支援チームが三菱商事復興支援財団とも連携。平成26年3月の抛出完了までの間、同チームが同財団とのパイプ役として活動した。

その後、営業再開に向けて二重債務の解消が不可欠と判断し、(株)東日本大震災事業者再生支援機構と連携。当行審査部企業支援チームが同機構との交渉窓口となり活動し、平成26年5月機構による債権買取りが完了した。



【スキーム図】

## 取組の成果

平成26年3月、市が震災遺構として旧ホテルを取得。同月、建設中の新ホテルの設備資金として当行、三菱商事復興支援財団が協調支援。その他、当行にてグループ補助金、高度化資金のつなぎ資金の支援も行った。

新ホテルは高台の限られたスペースでの13室での営業再開となったものの、各部屋に露天風呂を設置し、ハード面も充実。震災前からの同ホテルの強みである「新鮮な魚介類」を売りに集客を図っている。

地元建築業者の人手不足も重なり新築工事が長引き、ホテルオープンは当初予定の平成26年7月から最終的に平成27年6月と大幅に遅れ、本格的な再生はこれからであるが、震災遺構先の再生事案としてメディア・地元市民の関心も高い。

また、オープンの前には、営業統括部復興支援チームが中心となり、中小機構の震災復興支援アドバイザー制度を活用し、従業員向けに集客・稼働率向上の為の勉強会を開催。またミラサポ制度を活用し、接客アドバイザーによる勉強会を行うなど、資金繰り支援に留まらず、同社のレベルアップの為の支援を行った。この結果、ネット予約サイトで高い評価を得ており、リピーターに加え、口コミによる宿泊客増加に繋がっている。



写真1 ホテル外観



写真2 ホテルロビー



写真3 ホテル客室

## 今後の課題

平成27年6月のオープン以降、現在まで予約状況は良好であるものの、県内沿岸地域は冬場に旅行者が減少する傾向にあり、冬場の集客施策及び運営体制が課題である。

また、13室と小規模での再スタートとなり、限られたスタッフで運営している状態で未経験者もあり、退職者が出るなど、今後はスタッフの育成も課題のひとつとなっている。



### Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

#### 支援実施のポイント①

事業再開意欲の高い事業者への積極的な再生支援

#### 支援実施のポイント②

機構、自治体、各種補助施策を活用したスキームの構築

#### 支援実施のポイント③

再開後の経営力強化、販路開拓への積極的支援